

授業展開例（社会）

- 1 学年 第6学年
- 2 単元名 「わたしたちの願いを実現する政治」
- 3 単元について

本単元は、身近な公共施設について具体的に調べることを通して、日常生活における政治の働きや、政治が国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることに気付かせることをねらいとしている。

近年、選挙の投票率の低下に見られるように、特に若年層の政治に対する関心の低下が懸念されているが、民主主義国家である我が国においては、主権者として積極的に政治に参加する国民の育成が必要不可欠である。

小学校においても、基本的な政治の働きと我が国の政治の仕組みを理解させ、より良い社会の形成を目指す態度を育成する必要がある。

指導にあたっては、まず「公共」の意味、内容について考えさせ、グループで身近な公共施設を調べる活動を取り入れ、その中で住民の願いやそれを実現するための政治の働きに気付かせる。

また、調べた内容を相互に発表させ、それを基に行政や議会の働きや税の社会的意味について理解させていく。

さらに、国会の働きを中心に、国の政治の仕組みについて理解させ、あらためて「公共」の在り方について考える中で、社会に生きる一人の人間としての自覚を持たせるようにする。

4 単元の目標

- (1) 住民の願いと政治の働きについて進んで調べるとともに、より良い社会をつくっていかうとする意欲を持つ。
- (2) 公共施設ができる過程で、行政や議会がどのように関わっているか、また、税金がどのように使われているのかを考えることができる。
- (3) 公共施設の職員や施設利用者のお話、役所などで調べたことをまとめ、発表することができる。
- (4) 地方公共団体や国の政治の基本的な仕組みがわかる。

【普遍的視点】

コミュニケーション能力（主に技能面）

- ・ 調べる活動において、知りたい内容を適切に聞き取る。
- ・ グループで調べたことを、わかりやすく伝える。

自他の理解と尊重

- ・ 各グループが調べたことを交流し、それぞれの良さを認め合う。

共生・共感

- ・ 住みよい社会をつくるためには、自分と同じように他の人の思いや願いを理解し、尊重することが大切であることに気付く。

5 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
住民の願いと政治の働きについて積極的に調べようとしている。 社会の一員として、住みよい社会の実現を目指す意欲を持つ。	住民の願いを実現するために、政治の様々な働きがあることや、税金が全ての住民のよりよい暮らしのために使われていることに気付くことができる。	グループで調査したことを、相手によりわかりやすく伝えるために、資料をまとめ、工夫した発表をすることができる。	政治の仕組みや選挙の意味、税金の使われ方について基礎的な知識を持つことができる。

6 指導と評価の計画（全10時間）

次	学習内容（時数）	評 価					評価方法
		関心	思考	技能	知識	評 価 規 準	
1	教科書の記述を基に、「公共」の意味について考え、自分たちの町にほしい公共施設について話し合う。 （1）					「公共」の意味を考え、「みんな」のために建てられている公共施設の存在に気づき、その利用や建設の経緯を調べようとする意欲を持つことができる。	ワークシート 発表
2	グループに分かれて、既存の公共施設について調べ、まとめる。 （5）本時5 / 5					グループごとに調査計画を立て、協力して積極的に聞き取りを行うことができる。 調査結果や資料をわかりやすくまとめた発表内容をつくることができる。 発表内容を基に、公共施設と政治の働きとの関連について考えることができる。	調査計画 発表資料 ワークシート
3	市議会を見学し、その働きと税の社会的意味を理解する。（2）					公共施設の建設を手がかりに、市議会の働きと、税の社会的意味について理解することができる。	ワークシート 発表
4	国会の働きを調べ、選挙の大切さについて考えとともに、政治の仕組みについてまとめる。（2）					国における国会の働きと選挙の仕組みについて理解することができる。 公共と政治の働きについて、自分たちの暮らしとかかわらせながら考えることができる	観察法 発表 レポート

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- グループ相互に発表の交流を行うことを通して、住民の願いとそれを実現する政治の働きについて気付くことができる。

【普遍的視点】

- 発表の交流を通して相互の良さを認め合い、共通点や相違点を基に相互に意見を発表することができる。（自他の理解と尊重）

(2) 準備物

教科書 東京書籍『新編 新しい社会 6下』
発表用の資料、ワークシート

(3) 展開

	主な学習活動	主な発問	指導者の支援・留意点	評価規準	評価方法
導入	本時のめあてを確認する。	それぞれのグループの発表の良かったところや、他のグループと同じところ、違っているところに気をつけて聞こう。	発表の相互交流をし、それぞれのよさや、調査した公共施設の共通点、相違点について考えることを知らせる。 メモするポイントを再確認させる。		
展開	それぞれのグループで調べたことを発表しあう。 発表内容などについて質問し、答える。 各グループごとに、他のグループとの共通点や、相違点を話し合う。 各グループで話し合ったことを全体で発表する。 各グループの発表を基に、共通点などから政治の働きについてまとめる。	グループで、他のグループの発表内容と比べてみよう。 公共施設は、どのようにして作られるのでしょうか。	聞き手にわかりやすく伝わるように、適宜、発表を支援する。 的確にメモを取りながら発表を聞くようにさせる。 各自のメモや、気付きを基に、全員が話し合うようにさせる。 他のグループの発表の良さについても話し合うようにさせる。 他のグループの良さ、共通点や相違点など、発表で必ず触れる視点を明確にする。 各グループの調査内容を基にした話し合いにする。	お互いの発表の良さを認め合う。 住民の願いを実現する政治の働きについて考えることができる。	観察法 発表観察法
まとめ	本時のまとめをする。	わかったことや、気付いたこと、疑問などを書こう。	各自が書いたワークシートを手がかりに書かせる。	私たちのくらしに政治の働きが反映させていることがわかる。	観察法 ワークシート

8 評価

- ・ 調べたことを基に、自分たちのくらしに政治の働きが反映されていることに気付くことができたか。
- ・ **発表の交流や話し合いを通して相互の良さを認め合うことができたか。**
(自他の理解と尊重)